

家庭

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
家 庭	保育実践	2	3年次・J2群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
保育実践 （文部科学省）				・人文科学系列を選択している生徒 で、前年度「保育基礎」を履修した者 ・福祉系列の3年次生

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
子供の表現活動に関する知識と技術を習得し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うとともに、保育の充実を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的に解決する能力を身に付ける。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	第1章 子供の表現 活動と保育	(1)子供の表現活動の面白さ (2)造形表現活動 (3)言語表現活動 ○保育実習① ○保育実習②	4 5 6	・子供の遊びの重要性及び遊びの種類と発達との関わりについて理解する。 ・子供の心の感動が原動力となって、描いたり、造ったりすることの大切さ、表現活動を通して個々の創造性を育てていくことの大切さを考える。 ・絵本や紙芝居、児童文学などを鑑賞し、絵本の大切さや絵本が子供に与える影響について理解する。 ・家庭科保育技術検定を活用し、保育技術の習得を目指す。	1 2 3 1 3 1 2 3 1 3 1 3
			(1)保育の活動計画 (2)保育実習	7	・保育体験実習を通して、子供の表現活動の意義と児童文化財の重要性を理解する。	2 3 2 3
	2 学 期	第2章 子育て支援 と保育	(1)子供・子育ての問題 ○保育実習③ (2)子育て支援のための各種施設 (3)子育て支援の実際 ○保育実習④	9 10 11 12	・現代社会における子供・子育ての問題や、子育て支援について理解する。 ・地域の施設を調査し、それら児童文化施設の目的を理解し、適切な活用方法について考える。 ・地域の子育て支援について調査し、課題を発見し、その解決に向けて考察する。	1 2 2 3 1 2 1 2 2 3
			(4)音楽・身体表現活動 (5)情報手段などを活用した活動 (6)表現活動の実際 ○保育実習⑤	1 2 3	・子供が音楽に親しみ、歌を歌ったり、リズム楽器を使ったりする活動を援助する方法を考える。 ・子供の心身の発達への影響に留意しながら、情報手段を保育に活用する方法を考える。 ・保育実習を通して、子供取り巻く現状について理解を深め、主体的に解決策を考える。	1 2 3 1 2 1 3 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○子供の表現活動に関する知識・技能を習得し、活用できたか。 ○保育実習で適切に子供と関わることができたか。	○保育に関する様々な問題の解決策を考えることができたか。 ○表現活動の製作において、子供の目線で考えることができたか。	○習得した技能を、実習で取り入れることができたか。 ○子供を取り巻く現状を主体的に解決しようとしてるか。
	手 段	・定期考査 ・作品	・定期考査 ・授業レポートの記述	・授業・実習態度の観察 ・実習レポートの記述
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・年2回の期末考査と課題で評価する。 ・授業や実習に取り組む態度、提出物の状況、作品なども評価に含む。	
学習上の留意点		・授業への出席や授業中の態度、レポートの提出状況などの平常点が重視される。 ・手作りおもちゃ、絵本、紙芝居などの作品制作では、取組状況と作品の両方が評価される。 ・保育所訪問等体験学習への取組、観察記録の提出状況等も重視される。 ・提出物は期限を守って提出すること。		